

私市ぶらーりぶらり



俺様は天野川の怪獣だよ。(本当は蝦蟇)
これを読めば私市がわかるよ。

天田神社 須彌寺 磐船神社 獅子窟寺。石切剣箭
神社



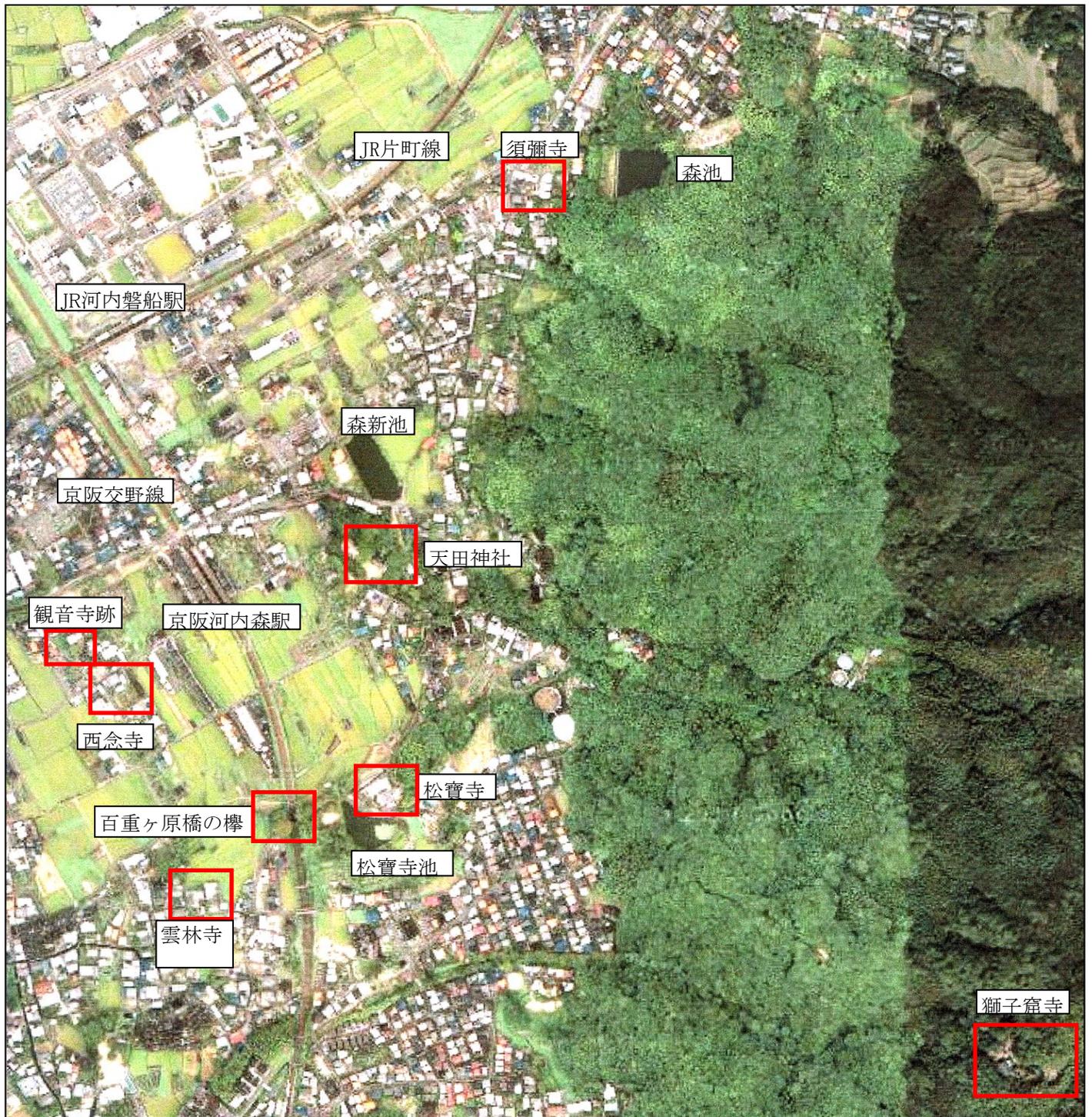
私市は自然と歴史の宝庫です。



3月から7月末まで鶯が鳴いている。山がすぐ側なので行くところ行くところで鶯の鳴き声を聞く。竹林が多く、春には筍が見られる。桜が多くどこに行っても3月末4月初めは花見ができる。山が近いので山に向かう道路は勾配がきつい。昔のままの住宅が沢山残っておりその家にはたいてい蔵がある。時代劇に出てくる武家屋敷の門構えで門だけを見ていると侍が出てきそうな錯覚を覚える。その様な家だから殆ど平屋だ。また道路は狭く幅5尺のところから8尺程度で軽四がかろうじて通れる様な狭い道ばかりだ。車のすれ違いはできない。村中のメイン道路は幅6mのところもある。道路の脇には側溝(幅60cm~90cm)がありきれいな冷たい水が流れている。此処は水が豊富で市水の約半分はこの地域の地下水で賄われている。この地域に15箇所の採水ポンプ場がある。また180年以上続いている地酒屋がある。それだけ水が良く、豊富であることは素晴らしい環境の条件と言える。JR片町線と京阪交野線が通っており、また3月に第2京阪道路が開通し不便だった道路も便利になった。

それだけに田畑がつぶされ山が切り崩され住宅開発が進むことは残念だ。その様な田舎町それが、大阪府交野(かたの)市私市(きさいち)。交野と書いて「かたの」私市と書いて「きさいち」常識では読めない漢字が当てられている。そこで「きさいち」の名前の由来を調べたい。天田神社の由緒には天の磐船、饒速日命(にぎはやひのみこと)、肩野物部氏、推古天皇。須彌寺、獅子窟寺には亀山上皇、空海など神話、歴史上の人物が現れる。これらまとめて面倒見よう。

下図は私市、森地区の航空写真





「きさいち」の植え込み。側を京阪電車が通る



「きさいち」植え込みの上、桜咲く。



河内磐船駅に「松井山手」行き普通電車停車そのすぐ後「京田辺」行き快速、急接近。駅の上、京阪電車が通る。



松寶寺より寝屋川、枚方、高槻を望む。



天田神社 秋の祭り 10月



天田神社遺跡
須恵器
だいつまちょうけいつぼ
台付長頸壺
交野市教育委員会蔵

古墳時代(1700~1400年前)
肩野物部氏の時代か
天田神社から発掘

百重ヶ原橋の側に立っている樺の大木です。私市の段丘に広がる百重ヶ原に聳え立つ樺で私市のどこからでも眺望できます。私市6丁目の松尾武雄家の曾祖父の代に植えられて120年を迎えます。



まずは散歩で必ず参拝する天田神社を調べてみよう。村の氏神様でそんなに広くない敷地に平安時代より祀られているのが住吉四神でそれ以前は肩野物部氏とその先祖である饒速日命が祭神であった。私にとって天の磐船に乗って降臨してきた饒速日命（にぎはやひのみこと）に興味がある。また敏達天皇の後の豊御食炊屋姫尊（とみけかしやきひめのみこと）、後の推古天皇がかかっているのに驚く。

天田神社由緒

当社は私市、森両集の氏神社で住吉四神を祀る。 古代この地方は地味肥え作物豊かな野であったので甘野といわれ川は甘野川 田は甘田であった。この甘田に田の神を祀って建てた甘田の宮が当天田神社の起源である。交野地方は肩野物部氏の所領でその先祖饒速日命は天の磐船に乗って河内の哮が峰に天下った先代旧事本紀に記され、長く交野の祭神になっていた。その物部氏が西紀577年敏達天皇の皇后御食炊屋姫尊（後に推古天皇）にこの地を献じて、ここが私市部になったのであるが平安時代に入り京都の宮廷貴族が遊猟に来ては盛んに和歌を詠み七夕伝説に因んで甘野川は天の川 甘田は天田と書くようになった。其の頃住吉進行為流行し一方磐船の神も海に関係があると考えられさらに物部氏の衰退もあって交野の神社の祭神は饒速日命から海神であり和歌の神でもある住吉神に替わって今日に至っている。境内から祭祀に用いられたと思われる土師器が出土し、また近くに物部氏のものと推定される巨大な古墳群が発見されるなど当地の歴史の古さをしのばせるものがある。



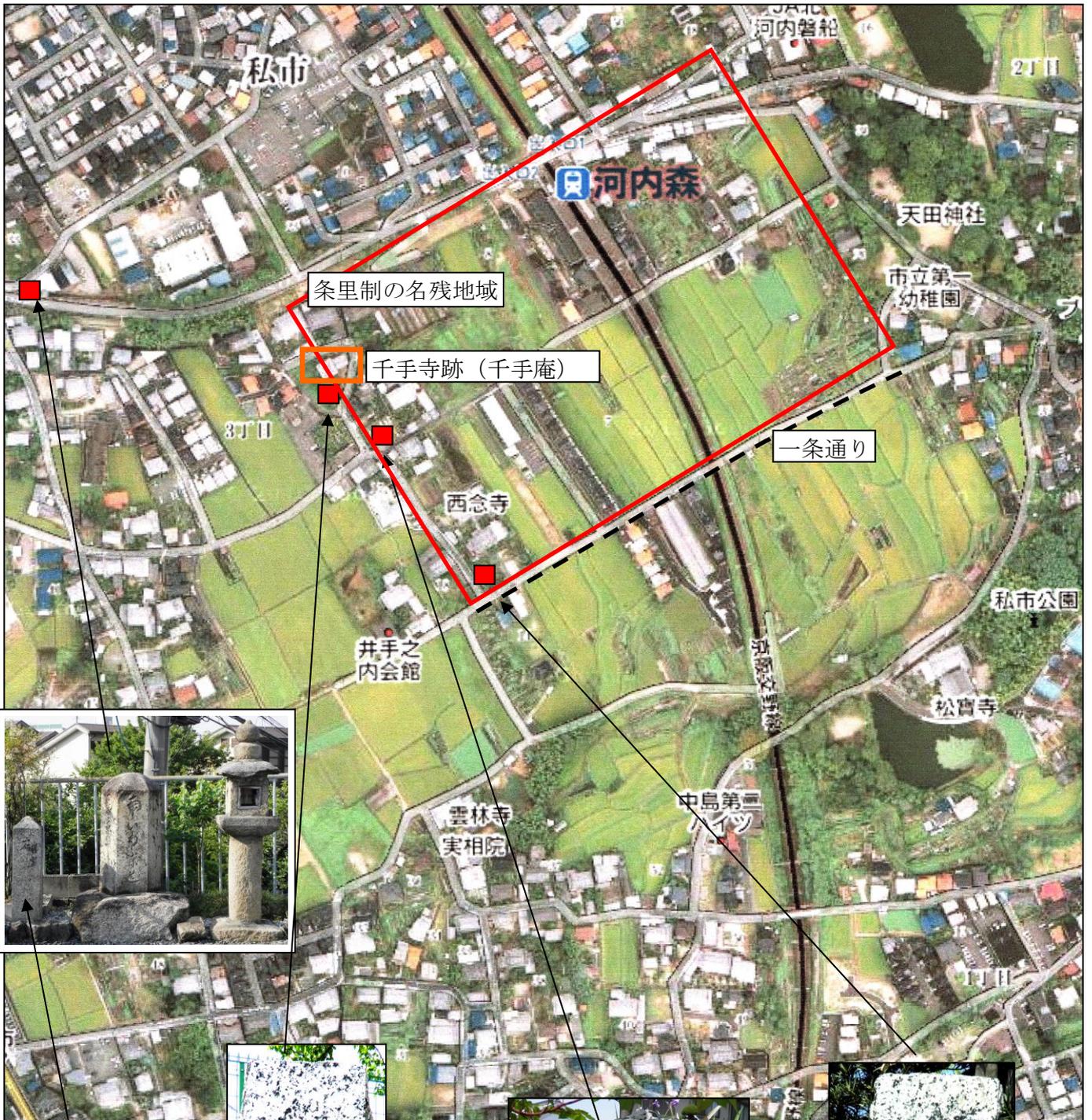
由緒に私市部になった事が記載されているがこれではわからない。本来、后部（きさきべ）とか后市部など（きさきちべ）とよばれた后妃のための部。敏達天皇の時、后妃個人個人のための名代（なしろ 大化前代の皇室の私有民）の部の代わりに后妃全員のために置いたと言う。「私」の字をあてたのは中国の古典に后妃のための官を「私官」と記したことに依る。これにより敏達天皇の時代よりこのあたりを私市、私部と呼ぶようになったと思われる。故にこの地名は1400有余年前からいわれている。



天田神社全景



天田神社を守る衛士（旧像は明治11年寄贈された）
上2体は古いもので平成22年3月頃まで在った
両端の衛士は7月6日に新しくなって帰ってきた
（修理された）



左
岩船(?) 街道



此付近龜山上皇駐蹕私市觀
音寺跡



石清水八幡宮三宅山



古代天野川條里区画一条通
遺跡

石碑を調べてみました。

「古代天野川條里区画一条通遺跡」 701年（大宝元年）8月大宝律令が完成する。この法典において初めて行政法、に相当する令に加えて刑罰法の律が成立し整然とした国家の骨組みである法体系が完成した。大宝律令に班田収授法（定期的耕地割換法）があり、それに耕地の区画をきめたものが条里制という。おおむね郡ごとに耕地を6町間隔で縦横に区切り、6町間隔の列を条、6町平方の一区画を里とよび、1里を更に1町間隔で縦横に区切って合計36の坪とし、何国何郡何条何里何坪とよぶことで地点の指示を明確にし、かつ耕地の形を整えた。この地を上空から見ればそれらしき形から推測できる。赤枠が条理区画と推測。

「石清水八幡宮三宅山荘」 平安時代に入り京都の宮廷貴族が狩猟など遊びに来ていた。その当時この地域は石清水八幡宮の荘園だったと思われるが宮廷と八幡宮との繋がりは強かったと思われる。此の地を貴族が遊びに来ることで八幡宮は此の地をより良い形にしていたものと思える。また古墳時代（1800～1400年前）の中期から後期にかけて交野が原（この地域一帯）に「屯倉（みやけ）」と言う倉庫が並んでいたらしい。またそれらを「三宅郷」と言ったところから三宅山荘という名前が残ったのではないかとと思われる。獅子窟寺や交野山などがある山脈を三宅山脈という。どちらが先か。

「此付近亀山上皇駐蹕私市観音寺跡」 13世紀末と思われるが亀山上皇が観音寺（千手寺）を建てられた。亀山上皇がご病気の時、獅子窟寺野薬師如来に平癒の御祈願をされ、行宮を作られた。病気は治癒したため、大変喜ばれ、ここに観音寺（千手寺）を建てられた。この寺の維持のため田をお与えになったので「院田（いで）」（上皇の田）という名前が残りました。元和元年（1615年）に大坂夏の陣で大坂方に焼かれました。現在、仏像収蔵庫に聖観音立像、如意輪観音坐像、他廃観音寺と廃蓮華寺の仏像が保管されています。

私市、森を少しぶらり



田圃の中のお地藏さん



西念寺 親鸞聖人像

私市4丁目 実相院横



私市3丁目 道幅1.8m 黒塀、土蔵

私市4丁目、武家屋敷の門構え



懐かしいホーローの看板

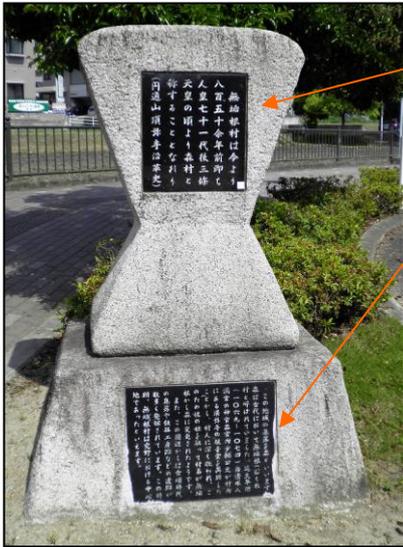


森地区の旧家



大門酒造 「無垢根亭」

JR河内磐船駅前に森村の名前の由緒の石碑がある。これを読むと平安時代（794～1192年）に遡る。



無垢根村は今より八百五十余年前、即ち人皇七十一代後三條天皇の頃より森村と称することとなり（円通山須彌寺沿革史）

この地域の集落を森といいます。森は古代において無垢根村と呼ばれていました。延久年間(1069～1074)岩清水八幡宮の神官森宮内少輔公文が村内にある須彌寺の観音堂再興したことから村人に深く敬われ彼の姓を取って無垢根から森に変更されたようです。またこの周辺からは古墳時代の集落や鉄器工房などの遺跡が数多く発掘されています。この時期無垢根村は交野における中心地であったといえます。

71代後三條天皇（1034～1073）の在位（1068～1072）の時と観音堂再興した時を考えると1071年頃に「森」に変わったと推測します。須彌寺の創設は遺跡からみて奈良時代後期ではないかと思われま



須彌寺遺跡
須恵器
こしき 甑
交野市教育委員会蔵

須彌寺遺跡

当寺は山号を円通山、現在は西山浄土宗に属します。真言宗の開祖である弘法大師が平安時代の初め（九世紀前半）に創建したと伝えられていましたが、平成九年の発掘調査によって奈良時代後期（八世紀後半）の瓦が出土し、寺伝よりも年代が古くなる事が確認されました。

その後、一時期衰退しますが、平安時代後期（十一世紀後半）に石清水八幡宮神官の森宮内少輔公文が再建したと伝えられています。調査でもこの時代の瓦が確認されています。鎌倉時代後期（十三世紀後半から十四世紀初頭）には意匠性の高い瓦が用いられていることなど、再び隆盛を極めたようです。また、交野市獅子窟寺や郡津神社、奈良市の薬師寺からも同範瓦が出土しています。

平成二十年十二月

奈良時代の瓦
鎌倉時代の瓦

交野市教育委員会蔵
円通山須彌寺

発掘風景

須彌寺遺跡

飛鳥時代～江戸時代

平成8年度交野市教育委員会が発掘調査を行い、新たに遺跡であることが確認されました。

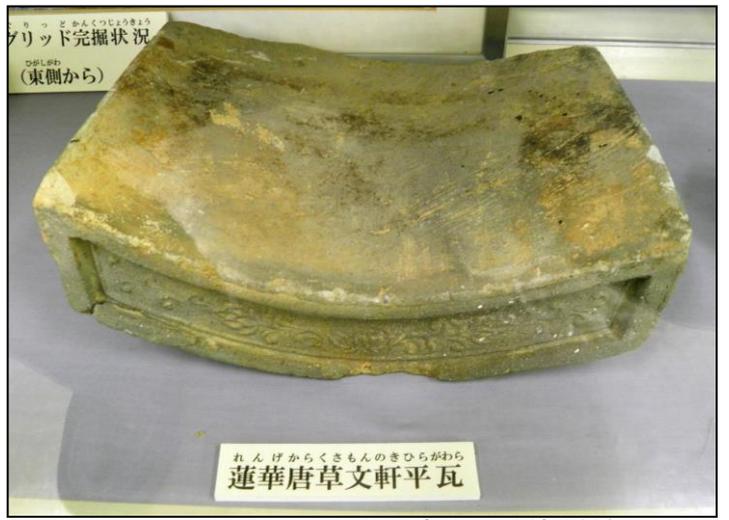
『須彌寺縁起』によると、創建年代は、平安時代といわれていたが、調査の結果奈良時代に遡ることが確認できました。奈良時代には、直径約70cmの柱穴の配列から東西2間、南北2間以上の掘立柱建物が建っていたと思われます。

その後一旦寺は衰退したものの、平安時代末期に石清水八幡宮の荘園に組み込まれたという文献記録を裏付けるかのように、直径50cm前後の柱穴の並んだ土堀跡が検出されました。

瓦の中には、2次的に焼成を受けたものもあり、鎌倉時代に火災にあったことが推定されます。



復弁十葉蓮華文軒丸瓦
均整唐草文軒平瓦

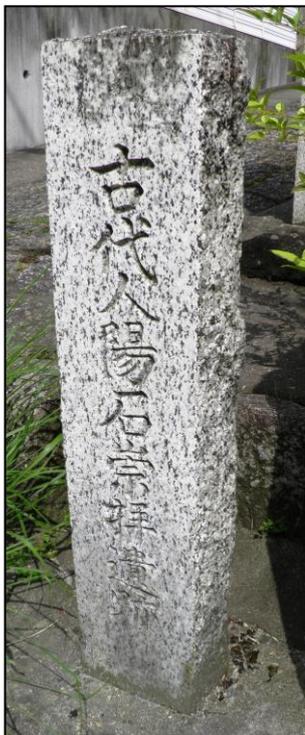


交野市立民族資料館

須彌寺には「古代人陽石崇拝遺跡」があり、また表立っていわれていませんが陰石もひっそりと置かれています。

古代人陽石崇拝遺跡

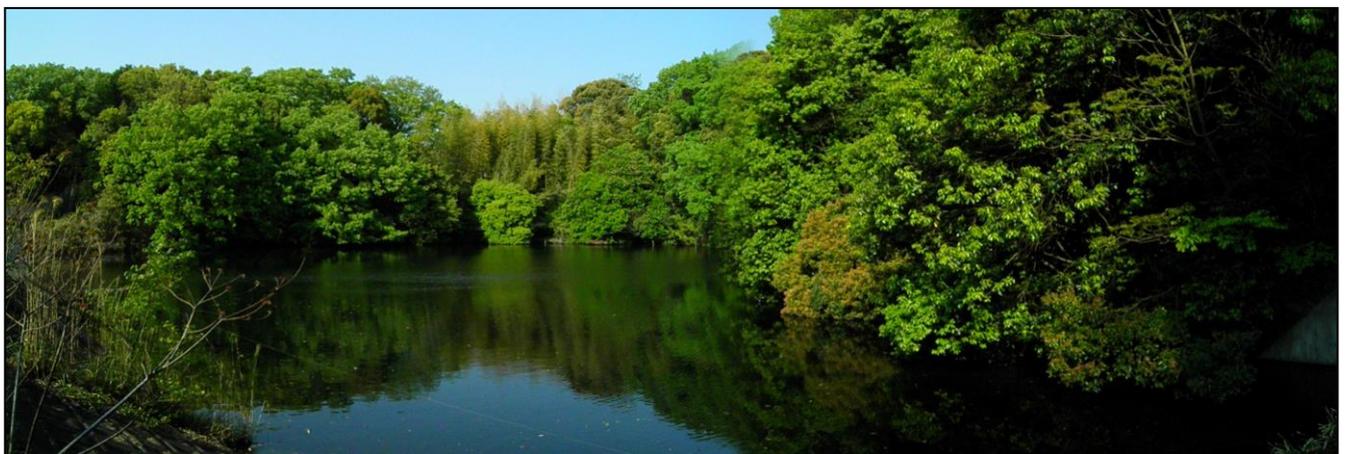
この石は縄文時代以降、古代人の間に行われた生殖器崇拝の信仰対象となって、後世これを陽石と称している。自然石で、その形は男根を連想して、当時の人はこれを石神と崇めて悪霊を払い生産靴豊かに、子孫の繁栄を祈った。交野地方ではこのほか穂谷三宮、釈尊寺境内にもその例があり注蓮を巡らし、拝祀されている。この石を祀る場所は村の最上位で、そこに村の聖地とした。この村の位置は古代の森村(古名無垢根村一現在森村落の北、当時の西一帯の田圃)を見下ろす丘陵の先端でこの村発祥の地といえる。平安時代の初期この地方が石清水八幡宮の荘園となり同宮からこの村にその警護観音を移すにあたり地をこの石神傍に定められたのは古来ここが当村の聖地であったからだ。



観音堂擬宝珠



森の池 須彌寺の向い木々に囲まれた池
かわせみ、カイツブリなどの巣がある。



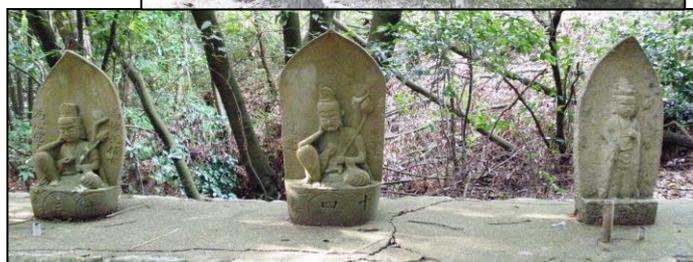


石清水八幡宮警固十一面観世音菩薩像

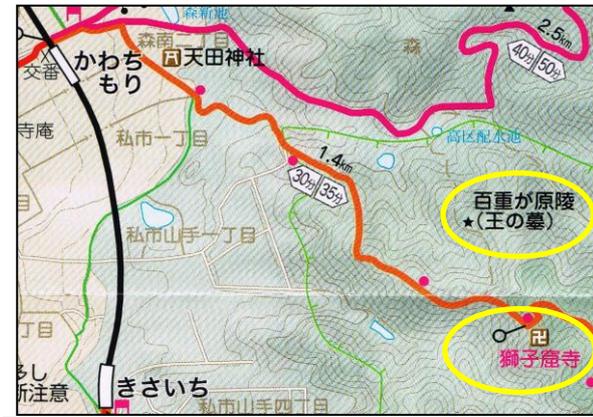


享保16年(1732) 亥年3月13日
施主 河内屋小兵衛

須彌寺の裏山には33体の石仏がある。 観音堂



石清水八幡宮の荘園としてのこの地域は森、私市のみではなく今の交野市全体と思われます。特に、天野川に沿った地域は狩猟に適していた地域で宮廷貴族が狩猟に来ることが多かった。



獅子窟寺由緒

普見山獅子窟寺（ふみざんししくつじ）といい真言宗高野山派に属する。開基は役小角（えんのおづぬ）と伝えられる。（本尊は薬師如来坐像で弘仁期（810～824）のカヤ材の一木造りで国宝）聖武天皇の勅願を受けた僧行基（668～746）が堂塔を建て金剛般若窟といった。その後に空海もこの山で修業した。龜山上皇（1245～1305）はこの薬師佛に病氣平癒を祈られ全快された喜びに荒廃していた寺を立派に再建された。嘉元3年（1305）上皇崩御の時その徳を偲んで王の墓が立てられた。元和元年（1615）兵火のために全山12院が焼失し中興光影和尚によって再建されたが以前の1/10にも及ばなかった。現在の寺はその当時のものである。 <補足>1615年大坂夏の陣で獅子窟寺は豊臣方に付かなかったため豊臣方につぶされるのを察知して沢山の別寺を造り寺宝を分散した。故に私市には寺が多いといわれている。

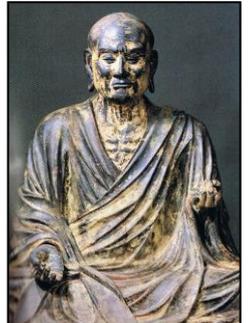


獅子窟 岩場

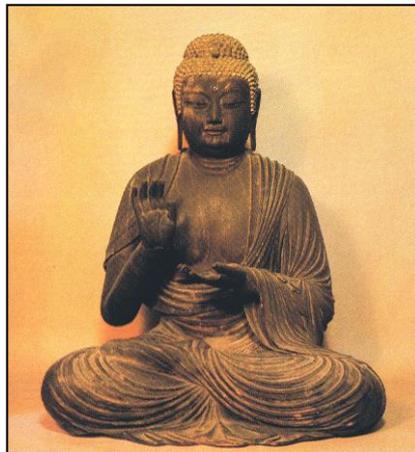


空海が修行中の水汲み場（獅子窟） 国宝

獅子窟寺の北側の石段を上れば巨岩が積み重なった景色を幾つも見ることができる。ここで沢山の修験者が修業したのだろう。この巨岩が積み重なった状態を獅子窟といったようだ。開基の「役の小角」（役の行者）は山岳宗教・修験道の開祖とされている。7～8世紀に活躍した伝説的な人物で天狗や鬼まで呪術によって支配するという。壬申の乱直前、天武天皇が吉野に逃れるのを助けたのが役行者と言われている。また文武2年（698）伊豆に流された。役小角が開山したといわれる山は葛城山、金峰山、大峰山、英彦山、羽黒山、石鎚山、富士山、愛宕山など各地にある。僧行基は役小角と同世代か役小角が少し早いか、だろう。行基グループの活動は寺（院という）の創設とそれに付随して灌漑を行う活動。「院、池、溝、堀、橋、布施屋」などを設置していった。これらの施策は豪族にも認められ政府からの弾圧を受けていたにも関わらず三世一身法（養老7年723年）の発布により活動を認められた。また大仏造営の勧進に起用され大僧正位を授けられた。



行基菩薩坐像 13世紀



薬師如来坐像 正月3ガ日に公開される



役小角



釈迦如来像



急な坂道を上ると獅子窟寺（薬師堂）に辿り着く。左の石段を上ると獅子窟岩場 房内の額



仁王像



獅子窟寺手前の仁王門跡。写真の仁王像2体が門を守っていた。



仁王像



仁王門手前の石碑

聖武天皇勅願行基菩薩開創
役行者弘法大師修業之旧蹟



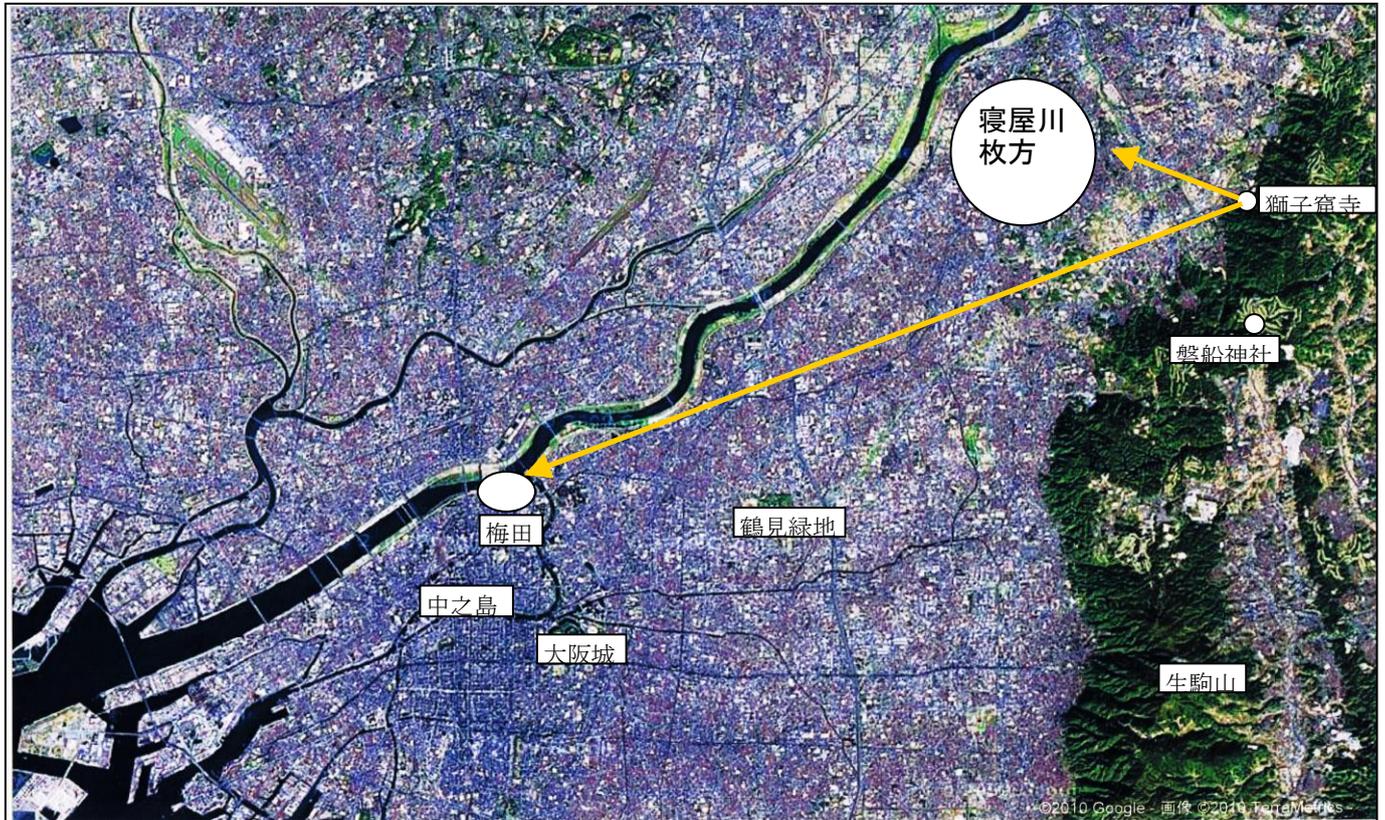
百重が原の墓陵



獅子窟寺代々の墓？



王の墓（亀山上皇と皇后の墓）



大阪市内から生駒山脈までの航空写真（獅子窟寺より梅田まで障害物がない）



獅子窟寺より寝屋川、枚方を望む。横断しているのは第二京阪道路



獅子窟寺より。葎屋の先に第二京阪道路。その先、大阪北のビル群。



豊崎町3丁目 ピアスタワー



磐船神社由緒

天照國照彦天火明奇玉饒速日尊(あまてるくにてるひこあめのほあかりくしたまにぎやかひのみこと)「日本書紀」「古事記」「旧事本紀」に依ると天孫饒速日尊は天照大神の御孫神にあたり大御神の御命令により高天原より天の磐船に乗り河内の國河上哮ヶ峰に降臨されました。後に大和の國に入り大和河内地方を開発し建国の礎を築かれ人々より天津神(天よりこられた貴い神様)と崇敬された神様です。饒速日尊が降臨に際して天空より国土を望まれて「虚空見つめ日本国」(そらを見つやまとのくに)と言われたことが「やまと」と言う国号の始まりとされています。尊は高天原より持ってこられた十種瑞神寶(とくさみずのかんだから)により鎮魂祭(たましずめのみまつり)を行い、病に苦しむ人々を助け死人を蘇えらせたといわれ加持祈祷の根源として神道のみならず修験道、密教、陰陽道からも崇敬されました。尊の子孫は物部氏と呼ばれ古代大和朝廷における最大最強の氏族を形成し、大連として代々の天皇に仕えておりこの交野の地に肩野物部という一族が居りました。当神社は饒速日尊が乗ってこられた天の磐船を御神体として祀り古来より天孫降臨の聖地として崇敬されています。当神社の創祀年代は明らかではありませんが磐座信仰という神道最古の信仰形態と伝承の内容から縄文から弥生への過渡期まで遡るとされています。その後、物部氏を中心として祭祀が行われていましたが物部氏本宗の滅亡後、山岳仏教や住吉信仰などの影響を受けるようになり、平安時代には「北嶺の宿」と呼ばれ生駒山系の修験道の一大行場と

上部の大船の様な舳先は南に向いていて、横18m、高さ12mの巨石である。大坂築城のとき、加藤清正が持ち出そうとした伝説の石である。



巨岩が重なり合っている



天の川イカル橋バス停 1日2往復



饒速日、天の磐船に乗って哮ヶ峰に降臨(小惑星イカワと饒速日像を合成)



哮ヶ峰

哮ヶ峰は上記地図ではタケルが峰だが磐船神社ではイカルが峰とよんでいる。



▲ニギハヤヒ画像

天田神社の由緒の饒速日命に興味を持って磐船神社まで来た。次に饒速日命を祀っている神社は？でんぼの神さんの石切剣箭神社に行ってみる。昔近くに住んでいたの石切さんに御参りしたことがあった。その頃はでんぼの神さんしか知らなかった。中央通の最東端、地上10mの高いところを走っている地下鉄が生駒山脈にもぐろうとする手前に石切剣箭神社の駐車場がある。¥200.(1時間)を払って車を停める。饒速日命を祀っているのは上之宮だ。下之宮から上之宮まで距離にして約1km東。道幅2m程度の石切の商店街の坂道を上る。近鉄奈良線のガードを超えると上り坂がよりきつくなる。生駒山を見ると真近にテレビのアンテナが見える。此处まで生駒の半分を登ってきている様に思う。

石切剣箭神社由緒

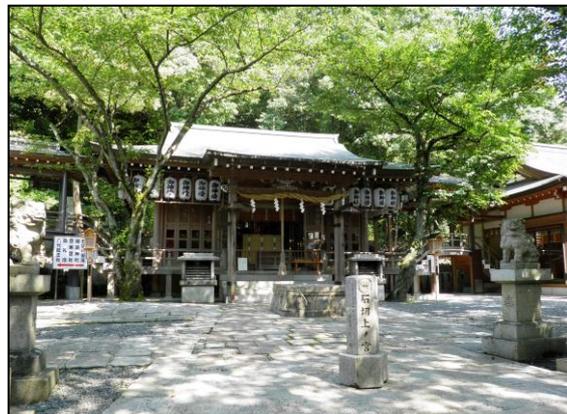
石切剣箭神社御鎮座の御由緒につきましては、今からおよそ700年前、足利時代の末に兵火にかかり、社殿及び宝庫が悉く焼失したため明らかではありません。しかしながら、延長5年(927)に編纂された「延喜式神名帳」の中に既に「石切剣箭神社二座」と記載されており、また延喜元年(901)に成立した「日本三大実録」には貞観7年9月に、本社の社格が正六位から従五位に昇格されたことが記されています。また天文5年(1536)に問う神社社家の祖先藤原行春大人が社家に伝わる口伝を纏めた「遺書伝来記」に寄れば、神武天皇紀元2年、現生駒山中の宮山に饒速日尊を奉斎申し上げたのをもって神社の起源とし、崇神天皇の御代になって「下之社」(現本社)に可美真手命(うましまでのみこと)が祀られたとあります。(注 可美真手命は饒速日尊の子供) (後、省略)



石切剣箭神社山門



石切剣箭神社 下之宮



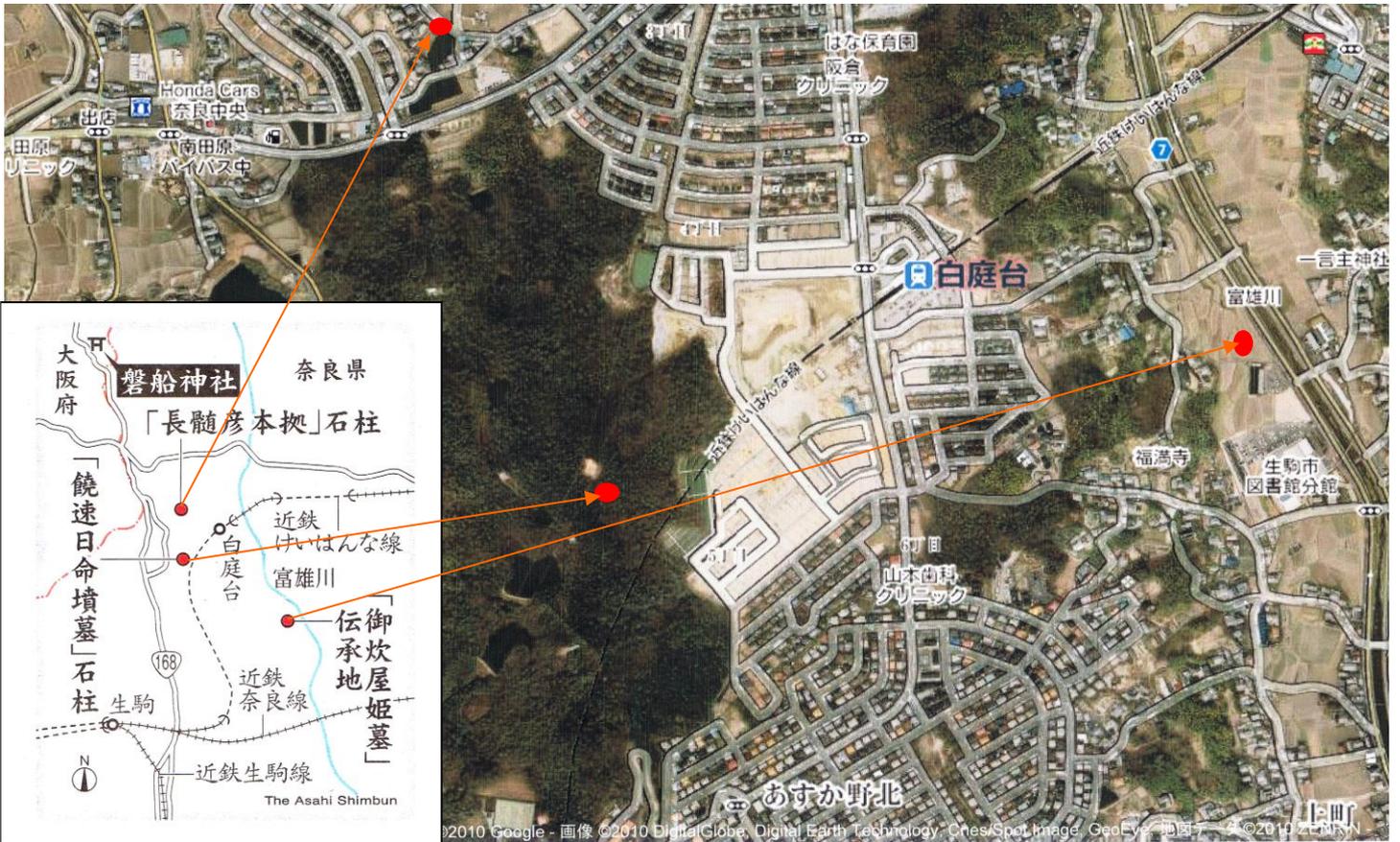
石切剣箭神社 上之宮

飛行神社 飛行の安全祈願の神社があるとは思わなかった。また祭神が饒速日命であるのが驚き。饒速日命が天の磐船で降臨したこと。最初に磐船という飛行体に乗ったということが祭神の言われた。

航空安全祈願 飛行神社 縁起略記
 鎮座 大正四年(一九一五) 三月十日
 主座祭神 饒速日命 古の飛行神 (由中央社遷)
 祭神 航空殉難者諸神 (向って右側社殿)
 祭神 薬祖神 (向って左側社殿)
 別社 常盤稲荷社
 当神社は明治二十四年(一八九一)四月二十九日に世界に誇るゴム動力プロペラ式飛行機の飛行実験に成功した二宮忠八が、後進の航空殉難者の尊霊を慰めるべく崇め祀った神社である。
 晩年自ら神職に就き昭和二年(一九二七)改修して朝夕航空安全祈願の奉仕をしたが、昭和十一年(一九三六)に没した。
 昭和三十年(一九五五)忠八の次男頭次郎が、再興に当り「空は一つなり」の信条のもとに、あまねく全世界の航空先覚者並びに遭難者の霊を迎え祀り、今日に至っている。現在の本殿拝殿及び資料館、集会所は、忠八の飛行原理発見百周年記念に際し、平成元年(一九八九)に全面改築したものである。
 平成十二年九月
 京都八幡市土井四十四
 宗務法人 飛行神社

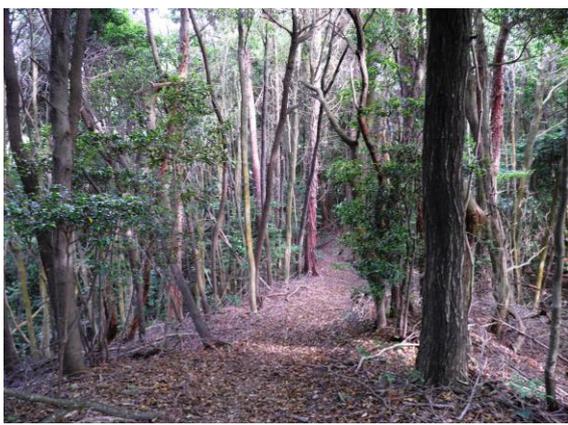


全国の空港の一部に飛行神社があると言う。(十数社)。どこの飛行神社の祭神も饒速日命と言うことで此の世界では常識のようだ。関西空港にもあるという。(八幡市の飛行神社は世界で初めて飛行機の模型を作った二宮忠八の家)



この記事が面白いので拝借させていただく。(生駒総合公園北側と白庭台一帯の写真)

『先代旧事本紀』によれば、高皇産霊は物部一族の祖先神・饒速日のおじいさんにあたる。今度はその孫の足跡を追った。『旧事本紀』は天磐船に乗った饒速日が河内国の哮峰に天降り、ついで大倭国の鳥見白庭山(とろみのしらにわのやま)に移った、と記されている。天上から降りたという場所にあるのが大阪府交野市の磐船神社だ。国道168号が奈良県生駒市から交野市に入るあたりは、天野川沿いでちょっとした溪谷地帯だ。そこにある磐船神社には、「古代」を感じさせる独特の雰囲気漂う。拝殿の裏の巨岩がまず目に入る。高さ12mという船形の大岩で、これが御神体になっている。なるほど「磐船」だ。ここは肩野も述べの勢力圏だったという。祖先が大岩に乗り、このあたりに降臨したという伝承も、「さもあらなん」とおもった。巨岩はこの御神体だけではない。境内には「岩窟めぐり」ができるほどたくさんある。「天照の孫の瓊瓊杵尊にせよ、饒速日にせよ、空からやってきたのではない。ヤマト王権や物部氏も、九州方面からの一族の移動や進攻をのちに『降臨』と称した」という説がある。興味深い筋書きだ。それはともかく饒速日が移動したという「鳥見白庭山」の伝承地は、磐船神社からさほど遠くない奈良県生駒市にあった。そこは神日本磐余彦(かむやまといわれびこ 神武天皇)の宿敵 長髓彦の本拠地と伝えられている土地でもある。饒速日は長髓彦の妹の御炊屋姫(みかしきやひめ)と結婚。長髓彦の本拠地に落ち着き、大和盆地に「にらみ」をかかしたというのは筋が通っている。近くには「饒速日の墓」もあるそうだ。現地は矢田丘陵の北部に位置している。15分程歩いて、赤と白に塗り分けた送電塔の下、「饒速日墳墓」と彫った石柱に辿り着いた。大正時代に大阪の歴史愛好家グループが立てたそうだ。背後に小石に覆われた土まんじゅうがある。石柱の前には榊や酒の空き瓶が置かれていた。「この妹の婿を葬ったのでしょ」と郷土史家はいう。長髓彦は登美毘古とも呼ばれた。白庭台の東には、現代の「登美が丘」の住宅地が広がる。南北には富雄川が流れる。「ゆかりの地」の雰囲気は充分である。丘を下って、農業用水池のほとりに据えられた「長髓彦本拠地」の石柱を見た。池の脇の集会所裏庭には「鳥見白庭山」の石柱がある。同じつくりだから同じ時期に立てられたのだろう。2本の石柱はもともと500~600m東にあった。しかし昭和50年代の開発で今の場所に移転されたそうだ。「長髓彦は『長いスネ』を持つ長身族だったのではないか」という説がある。これに対して『南北に長くた』という。私たちは最後に、畑の中にぽつんと残る塚を訪ねた。そこは御炊屋姫の墓と言いつた。このあたりに饒速日と御炊屋姫の邸宅があったのだろうか。古代史研究者の大野七三氏は「大神神社の祭神・大物主神は饒速日のことで、三輪山は饒速日の墓所だ」と考えている。その節に従えば、神武天皇は饒速日の娘と結ばれたことになる。それぞれが夢を育むことができる。古代史はまことにロマンの宝庫である。 以上 朝日新聞より



「長髓彦本拠地」の石碑は用水池の土手に立っていた。道は狭く私の車がかろうじて通れる道幅で行き止まりだった。左写真は「長髓彦墳墓」に行く山道。途中で引き返す。(注 長髓彦を祀る神社がない。)

私市、森と強い関係を持つ石清水八幡宮に行ってみる。

京阪八幡市駅に降りると駅の横に男山ケーブルの駅がある。15分毎に運転されている。乗客は2人。5分で山上に到着。



今年は「応神天皇1700年式年祭」ということで本殿が修理中だ。

石清水八幡宮由緒

祭神

誉田別尊(ほむたわけのみこと 応神天皇) 仲哀天皇の皇子で御母で神功皇后。胎中天皇ともいわれる。文学、灌漑、殖産興業を奨励。秦の弓月君を百濟より帰化させて養蚕業を盛んにする。また百濟より博士 王仁を招き、論語千文字の書をもたらした。我が国の文教の祖、殖産興業の守護神として崇められた。

比咩大神 多紀理毘買命・市寸島姫命・多岐津毘買命

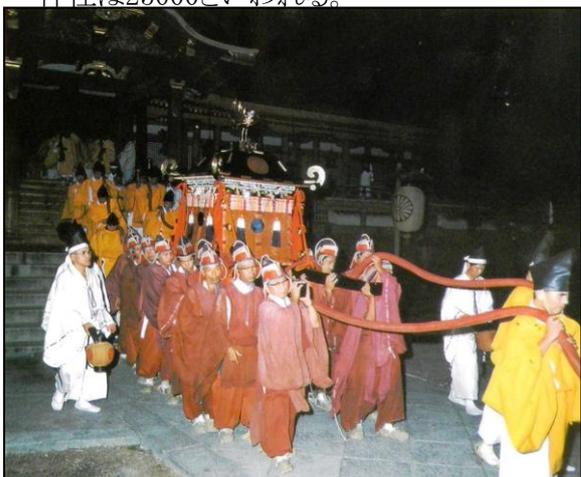
息長帯比賣命(おきながたらしひめのみこと) 通常 **神功皇后**といわれる。御幼児より聡明且つ容姿端麗。仲哀天皇2年のトリ皇后になられた。仲哀天皇が熊襲を制圧

後は神威を畏み、喪を発せられず、懐胎の御身を持って男装して海を渡り新羅を征し、百済も臣と称して朝貢するに至った。応神天皇を奉じて政を執り行うこと七十年。百歳で稚桜宮に崩じられた。

創建 南都大安寺の僧行基は清和天皇の貞観元年(859)7月15日豊前国宇佐八幡大神の「吾都近き石清水男山の峰に移座して国家を鎮護せん」とのご託宣を蒙った。よって木工寮権允橋良基は宣旨を承けて六字の宝殿を建立し、翌貞観2年(860)4月3日、ここに三所の神璽を奉安せられたのを当宮創建の起源とする。

八幡神の神徳は、ほんたわけの尊の業績から国家鎮護、殖産興業、教育などで家運隆昌、成功勝利、交通安全、悪病、災難除けなど。また八幡信仰の源流は、古くからの母子信仰だったと考えられる。神功皇后をあわせて祀るところも多く、縁結び、子宝、安産、子育て守護、などの信仰がある。

誉田別尊(ほむたわけのみこと)が八幡神として信仰される経緯は不明。ただ伺わせる縁起がある。豊前國宇佐郡の厩峰の麓の菱瀉池のほとりに一人の容貌奇異な鍛冶の翁が住んでいた。その翁が金色の鷹やほとに変じるのを見たこの土地の神主で大神比義(おおがなみよし)というものが翁に仕えること3年。ある日、もし神ならば私の前に姿を現してくださいと祈ると、翁は3歳の童子に姿を変えて竹の葉の上に立ち「われは15代の応神天皇であり、護国靈驗威身神大自在王菩薩なり」と名乗ったという。歴史上では応神期は朝鮮半島進出や東国平定など大和朝廷が大いに発展した時代の中で八幡神と誉田別尊が結びついたといわれる。中世以降、八幡神信仰は発祥地の宇佐八幡宮、中継拠点の石清水八幡宮、源頼朝が創祀した鶴岡八幡宮の3社を核として全国に広がった。全国の八幡系の神社は25000といわれる。



本殿周囲



7月17~18日 高良神社 太鼓祭り

9月15日午前3時より 勅祭石清水祭り

この祭には毎年、星田、森、私市から参加を要請されている。今でもこの伝統は続いており参加しているという。昔はこの日だけ苗字、帯刀を許されたという。

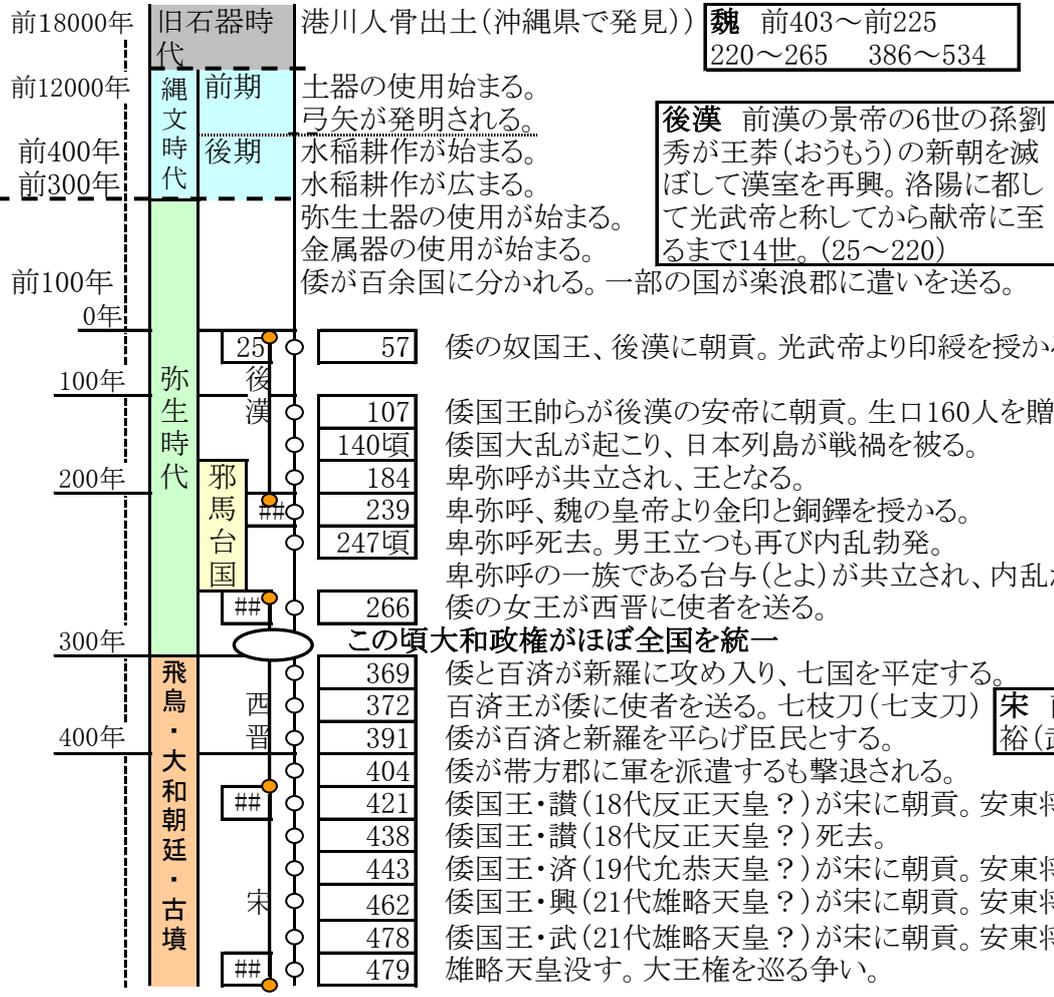
(注 15代応神天皇 ? ~394? 在位41年? 3歳で皇太子になり、皇太后が崩御すると即位した。4世紀後半から5世紀前半に活躍。

高句麗、新羅、百濟から入貢があり、沢山の文化技術も伝えられた。130歳(古事記に記述、日本書紀では110歳)で崩御

石清水八幡宮に行ったが石清水八幡宮と私市、森の関係は何も見つけられなかった。



ケーブルカーより大山崎、京都を望む

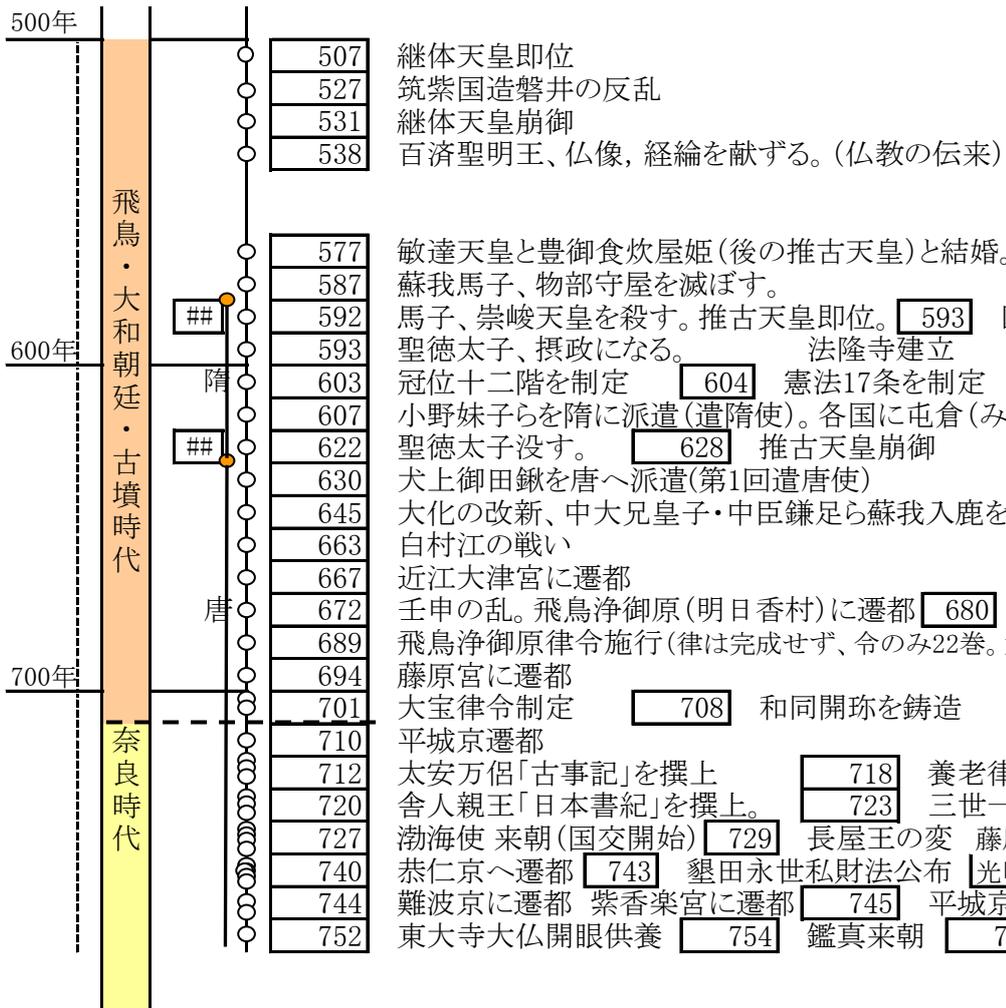


三角縁神獸鏡(レプリカ)
楽浪郡 前漢の武帝が衛氏朝鮮を滅ぼして今の平壤付近に置いた郡。中国の遼河付近とする説もある。

西晋 三国の魏に代って権臣司馬炎が建てた王朝。280年呉を滅ぼして天下を統一。4世で滅亡。(265~420)

宋 南朝のひとつ。東晋の將軍劉裕(武帝)が建てた国。420~479

前100年頃から500年までに後漢、魏、西晋、東晋、宋に朝貢し、倭国における権威を証明しようとした。これにより大陸の文化、技術が移入され農耕、養蚕、文字などが発達。また測るための秤、なども移入。



衝角付冑(鉄製) 5世紀



役小角 634?

行基 668

最澄 746

767



783 桓武天皇交野行幸(以降14回)
 784 長岡京に遷都
 794 平安京に遷都
 805 最澄帰国。天台宗開く。
 806 空海帰国。真言宗開く。
 812 嵯峨天皇 交野に遊獵する(以降12回)
 838 最後の遣唐使
 842 承和の変
 866 応天門の変
 894 遣唐使を廃止

899 菅原道真、右大臣と成る
 901 菅原道真、大宰府に左遷
 905 紀貫之「古今和歌集」を撰上する
 管崎宮を造営
 平将門の乱
 この頃、紀貫之「土佐日記」

1017 藤原道長 太政大臣になる

1051~62 前九年の役
 1069~74 石清水八幡宮宮司森宮内少輔公文が須彌寺に観音堂再興
 1083~87 後三年の役

1156 保元の乱
 1167 平清盛 太政大臣になる

1185 平氏 壇ノ浦で滅亡
 1192 源頼朝、征夷大將軍となり鎌倉幕府を開く。

1219 源実朝 暗殺される

1259 龜山天皇即位 この頃全国 飢饉

1274 文永の役
 1281 弘安の役

この頃、龜山上皇、疫病平癒祈願で院田(いで)を作る。獅子窟寺で病氣平癒祈願
 1305 龜山上皇崩御

1330 吉田兼好の「徒然草」なる。
 1331 元弘の乱 後醍醐天皇 笠置に移る。楠木正成ら挙兵。幕府 後醍醐天皇を隠岐に流す。光厳天皇を擁立。1334 建武の新政

1336 尊氏、楠木正成を倒す。幕府を開き建武式目を制定
 1338 足利尊氏 征夷大將軍となる。新田義貞敗死。
 1348 楠木正行、河内四条畷で敗死。
 1368 足利義満、征夷大將軍になる。
 1392 南北朝統一 後小松天皇、神器を譲り受けて即位する。

この頃、須

この頃、獅子窟寺で修業か



推古天皇陵



観音堂

龜山上皇
 1249
 天皇
 1274
 上皇
 1305

平安時代

鎌倉時代

南朝 北朝

800年
 900年
 1000年
 1100年
 1200年
 1300年
 1400年

河内磐船駅・星田駅 森の中で揺れる 星のブランコを訪ねて



散策モデルコース	
歩程	約8.5km
所要時間	約2時間46分
JR河内磐船駅 約0.4Km ↓ 約7分	
A	天田神社 約1.3Km ↓ 約23分
B	交野市立いわふね自然の森スポーツ文化センター 約1.9Km ↓ 約40分
C	いわふね自然の森からほしだ園地までの緑道 約1.9Km ↓ 約40分
ピトンの小屋 約0.5Km ↓ 約15分	
D	府民の森 ほしだ園地 約0.6Km ↓ 約16分
E	星のブランコ やまびこ広場 約1.0Km ↓ 約20分
F	永徳寺案内看板 約0.4Km ↓ 約6分
G	妙見工房 約1.4Km ↓ 約23分
H	星ノ森(星ノ森之宮) 約1.0Km ↓ 約16分
JR星田駅	

※モデルコースの歩程距離・時間は、取材での実測です。個人差がありますので目安としてご利用ください。



凡例	
⌈ 神社	⌈ 案内板・道標
⌈ 寺院	⌈ 食事処・レストラン
⌈ 学校	⌈ 自動販売機
⌈ 保育園	⌈ コンビニ
⌈ 幼稚園	⌈ 駐車場
⌈ 郵便局	⌈ バス停
⌈ 役所出張所	⌈ WC トイレ
⌈ 病院	⌈ モデルコース
⌈ 銀行	⌈ おみやげ
裏面で紹介するポイント	
A~F	ガイド
ちよっと足をのばして	ちよっと足をのばして

※このマップは、再生紙を使用しています。

のんびり散策、歩いて発見!!

あま だ じん じや A 天田神社

古代から地味肥え作物豊かな野であったことから「甘野」と呼ばれていたこのあたり。川は甘野川、田は甘田と呼ばれ、田の神を祀って建てられた天田神社の起源も甘田の宮だったとか。平安時代には京都の宮廷貴族が遊猟に訪れては和歌を詠み、七夕伝説に因んで甘野川を天の川、甘田を天田と書くように。境内からは、当時の祭祀に用いられた土師器が出土しており、歴史の古さを偲ばせる。



時 料 境内自由 問 072(891)2125 (磐船神社)

かたの しりつ し ぜん もり ぶん か B 交野市立いわふね自然の森スポーツ文化センター

「星の里いわふね」の愛称で親しまれる、スポーツと文化のスポット。天野川沿いに広がる24000㎡の敷地内には、ロッジのあるキャンプ場や自然植物園の他、体育室、陶芸体験や炭焼き体験のできる窯などがある。自然散策道をのんびり歩いてみたり、川沿いでの水遊びなど、自然に親しみながら、ほっとできるひとときが楽しめる。



時 9時~21時 休 火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 問 072(893)3131

し ぜん もり えん ち りよく どう C いわふね自然の森からほしだ園地までの緑道

星の里いわふねからほしだ園地までは、天野川沿いに整備された「かわぞいの路」を歩いて約2キロの道のり。ゆるやかなのぼりや下りをくり返し、小さな橋などを渡って自然の中を歩く半時間ほどの工程は、ハイキングの楽しみをゆっくり満喫できる。途中、河原に降りることができるポイントもいくつかあり、退屈することがない。



ちょっと足をのぼして

珍しい砂漠の花にも出会えるかも 大阪市立大学理学部附属 植物園

大阪市立大学の附属施設として昭和25年に開園。植物の中でも、特に樹木の収集と保存に力を入れ、北は北海道から南は沖縄まで、日本各地の樹木やアメリカ、オーストラリアなど世界の樹木を自然に近い形で見ることができる珍しい植物園。エリアごとに分けられた25.6ヘクタールの敷地内には紅葉山、サクラ山などがあり、どの季節に訪れても折々の花や植物を楽しむことができる。また、さばくの植物を集めたエリアでは、5年に一度しか花を咲かせないアンデスの「プヤ」なども育てられており、ラッキーならば普段は目にする事のできない花にも出会えるかも。休憩所なども整備されているので、植物の好きな人なら一日中も楽しんでいた気分にははず。



時 9時30分~16時30分(入園は16時まで) 料 大人350円(30人以上団体割引280円)、中学生以下は無料 休 毎週月曜日(休日の場合は開園)、年末年始 問 072(891)2059

ふ ぶん もり えん ち D 府民の森 ほしだ園地

自然の森の中に、「さえずりの路」「ほうけんの路」など、バラエティ豊かなハイキングコースが整備されたほしだ園地。園内には、高さ16.5m、オーバーハング2~5mの本格的なクライミングウォールがある。利用はライセンス所持者か指導者同伴に限られるが、見ているだけでも迫力は満点(無料、火曜日は休み)。「ピトンの小屋」の中には初心者でも体験できるクライミングゾーンがあり、無料で誰でも試すことができる。しっかり足場を決め、指先に力を入れてフックをつかめば意外に簡単に壁に張り付ける(?)のが楽しい。



クライミングゾーン



ピトンの小屋



星のブランコ

スリルと感動の星のブランコ

「ピトンの小屋」から「星のブランコ」までは、約25分。ちょっと疲れてきたなと思う頃に、美しい吊り姿が目前に現れる。橋の長さは280m、最も高いところで地上50m。幅1.2mの木製の橋を渡る瞬間は、まるで森の中を散歩しているようなスリルと感動が楽しめるひとときだ。

時 クライミングウォール・ピトンの小屋…3月1日~11月15日:9時~17時/
11月16日~2月末日:9時30分~16時
星のブランコ…3月1日~11月15日:9時15分~17時/11月16日~2月末日:9時45分~16時
休 年末年始(12/29~1/4)※クライミングウォール・ピトンの小屋は火曜日も休業。星のブランコは4月5日・10月・11月以外の毎月火曜日も休業 料 入園無料 問 072(891)0110

みょう けん こう ぼう E 妙見工房

鳥取や四国の鳴門などで修行を積んだ森和良さんの工房では、手びねりによる焼き物作りの体験ができる。静かな自然の中で、ひんやり冷たい土をこねていると、楽しかった子供の頃の粘土遊びを思い出す。自分で作った作品は、後日郵送してもらうことも可能。



時 9時~17時30分(陶芸体験は事前に要予約) 料 2000円(作品1点)。郵送料は実費 休 不定休 問 072(893)1199

ほし もり ほし もり の みや F 星ノ森(星ノ森之宮)

伝説によれば、弘仁年間(810~824)に降ったと伝えられる北斗七星は、妙見山と光林寺そしてここ、星の森に降ったとか。敷地の中央には石塚が築かれ、天から降り注いだとされる星が御神体として祀られている。石塚の上には、一番大きな石(星)が置かれ、実際に触れることもできる。

